



京都府域展開アートプロジェクトもうひとつの京都 2022
Kyoto Prefectural Art Project ALTERNATIVE KYOTO 2022

Artspace of the light

実施報告書
Document

京都府域展開アートプロジェクト もうひとつの京都 2022
Kyoto Prefectural Art Project ALTERNATIVE KYOTO 2022

Artspace of the light

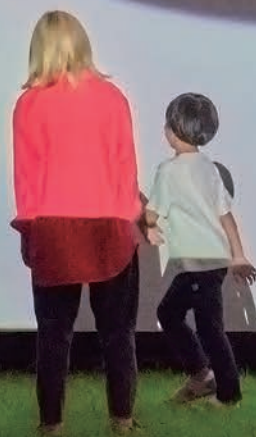
はじめに | Introduction

京都府では、「海の京都(府北部)」「森の京都(府中部)」「お茶の京都(府南部)」エリアの歴史や風土、有形文化財や名勝、景観、豊かな自然や生活文化等を題材としたアートプロジェクトを展開してきました。今年度は、新たに「竹の里・乙訓」を加え、地域文化と先端技術を組み合わせたデジタルアートによる空間演出や現代アート作品展示によって、地域の文化資源の魅力を引き出し、国内外へ発信、観光インバウンドの拡充と地域経済の活性化につながる取組として実施しました。

Kyoto Prefecture has been promoting various contemporary art projects which pay respect on prefectural authentic treasures such as history, culture, picturesque scenery, nature, lifestyle in the prefectural, Kyoto by the Sea (north), Woodland Kyoto (central), and Kyoto Tea Country (south), the areas that are particularly designated for tourism. This year, with the addition of Kyoto *Otokuni* Bamboo Grove, cutting-edge technologies was utilized for the digital installations and contemporary artwork exhibitions in the aim of the art corroborating with regional cultural resources. Given these creative event contributes to appeal its regional attractive cultural resources, art can be a great tool to boost local economy and inbound-tourism which is successfully praised by the international visitors.

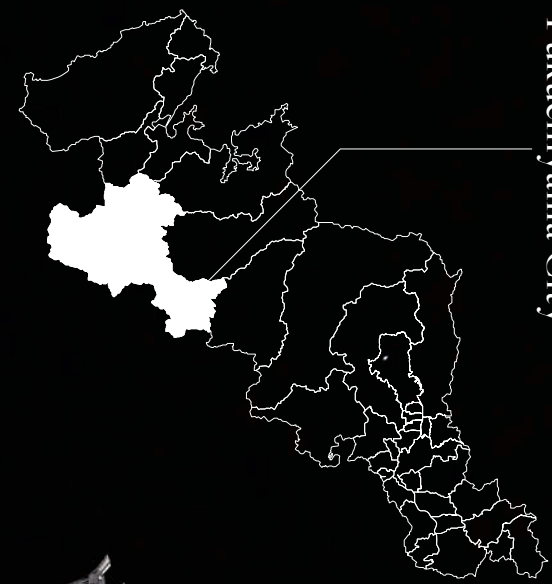
京都府开展了以“海之京都(府北部)”“森林之京都(府中部)”“茶之京都(府南部)”区域的历史、风土、有形文化财产、名胜、景观、丰富的自然和生活文化等为题材的艺术项目。

本年度，通过组合了地域文化和尖端技术的数字艺术的空间演出和现代艺术的作品展示，引出地域的文化资源的魅力，向国内外发信，作为与旅游入境的扩充和地域经济的活性化相连的搭配实施。



目次 | Contents

02	はじめに	Introduction
03	エリア別実施報告	Area-specific implementation reports
04	福知山市	Fukuchiyama city
19	宮津市・天橋立	Miyazu city, Amanohashidate
44	向日市	Muko city



Fukuichi City

福知山市

[海の京都]
[森の京都]

開催概要

主催 福知山イル未来と実行委員会
会期 2022年9月9日(金) - 10月10日(月・祝)
※金・土・日・祝のみ公開
会場 福知山城公園 18:00 - 21:00
新町商店街 13:00 - 21:00
《記憶と立ち上げ》展 13:00 - 18:00
作家 三谷正/花岡伸宏

城下町として栄え、山陰、北近畿などへの交通の要所である福知山では、地域とアーティストが出会い交流しながら創作した展览会や、地域の歴史や風土等を題材としたメディアアート作品やインスタレーション作品を展示。場所の文化資本に働きかける新たな機会の創出を図りました。

Fukuichi City, located in northeast of the prefecture, has been flourished as a castle town and a major transportation hub for the San'in and northern Kinki regions. The artists inhabited there challenge to show a different perspective of Fukuichi in terms of history, local lifestyle, and so on. Artists spontaneously take part in the local community and many creative activities such as "Work in Progress" exhibitions were held. Also, media artworks and installation capturing the regional atmosphere were shown in the several public locations in the city.

作为城下町而繁荣，在通往山阴、北近畿等地的交通要道福知山，展示了各种各样的艺术家以“光”为主题的展览会实施，以及以地域的历史和风土等为题材的媒体艺术作品和设备作品。通过创作活动的地域和艺术家的交流，谋求推动场所的文化资本的新的机会的创造。

三谷正

MITANI Tadashi

《subsurface: L350》



《subsurface: L350/C250》

インスタレーション

プロジェクトマネージャー・設営：川崎麻耶

ドラマトウルク：山崎なし

VFX：Jun Hirao サウンドプロデューサー：KND

シンセサイザーコンポーザー：Shoichi Murakami

システムプログラミング：中野将生

足場設営：茨木工業

照明デザイン：久保綾佳(wakka)

協力：(一社) 福知山青年会議所

L350は街をまっすぐ貫く350mの直線、新町商店街。
C250は城を中心とした250mの曲線、福知山城公園。
《Subsurface》は数十台のプロジェクターと数百の街灯を制御することで、ふだんは城や城下町などの「歴史」で糊塗されその表面下に沈んでいるこれらの場所の本質的な価値、そしてその範囲を明示する。光は寄せては返す大小のランダムな波となり、来場者は波打ち際で遊ぶように福知山の個性とそぞろ歩く。

《subsurface: C250》





花岡伸宏

HANAOKA Nobuhiro

《記憶と立ち上げ》

インスタレーション

プロジェクトコーディネーター：松田雅代

新町商店街の方々の協力を経て、日常生活の中で不用となった日用品や廃材などを集め、これらを立体的に組み上げていき、新たにオブジェとして再構築する。集められたモノの多くは、当然のことながら、その場所で培ったそれぞれの歴史や記憶が内包されており、私はこのさまざまな記憶と共に新たな彫刻のかたちを模索してみたいと思う。



第1会場

旧コスモス食堂

50年ほど前まで営業していた食堂。うどんの人気店として、店内はいつも賑わいを見せていた。現在の家主家族の衣類や、旧店舗に残された物を用いて空間を構成する。

《記憶と立ち上げ》

木、鉄、ブロンズ、衣服、畳、鉛筆、その他
2022年

第2会場

シンマチサイト(旧さいとう家具店)

10年ほど前まで営業していた老舗家具店。2019年より文化芸術の発信の場『シンマチサイト』として活用している。会期中も花岡はこの場所を拠点に商店街内の店舗を訪問し材料を集め、制作をおこなう。

《立ち上げ、時々座る》

木、鉄、衣服、畳、座布団、椅子、紙粘土、日用品、家具、鉛筆、アクリル絵具、その他
2022年



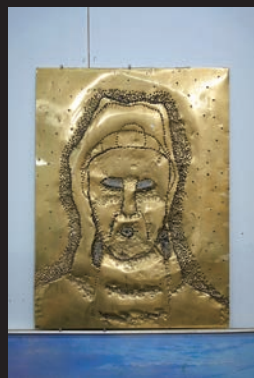
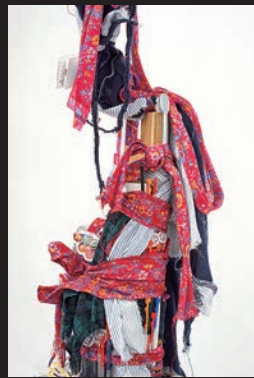
第3会場

旧高木酒店

10年ほど前まで営業していた酒店。店舗の奥には酒蔵跡があり『鷹の春』という銘柄を醸造していた。現在は物置き場として利用されている。

《記憶の再構成》

木、樽、乳母車、手袋、杉玉、障子、雑誌、ブロンズ、置物、酒、鉛筆、その他
2022年



《記憶と立ち上げ》、3つの場所
小田原のどか

明智光秀が築いた福知山城を擁する京都府福知山市は新町商店街で、花岡伸宏の展示は行われた。福知山青年会議所、京都府、福知山市、福知山公立大学学生有志が結成した実行委員会が主催し、京都府が2019年から手がけるアートプロジェクト「ALTERNATIVE KYOTO」の一環としての開催だ。

福知山は、山陰や北近畿への交通の要所である。城下町ゆかりの歴史は随所に窺え、興味深い歴史に事欠かない。『京の女性史』（京の女性史研究会編、京都府発行、1995年）によると、市街地の東北部にはかつて遊郭があった。この一画には、いまでも当時の面影を残す町並みが残っている。

花岡の展示会場となった新町商店街もまた、複雑な歴史が折り重なった場所だ。1902年に広小路通りとお城通りを結ぶ新町通りが開通し、商店街として栄えた。商店街のすぐ裏の路地には、1892年に開教した大本教の開祖・出口なおの生家がある。現在では閉業した店舗も少なくないが、通りを歩きながら視界に入る一店一店に、固有の時間の蓄積が感じられる。

展示会場は新町商店街の3つの空間だ。第一会場は、かつてコスモス食堂という名前で営業していた飲食店の跡地である。うどんが看板メニューであった同店は50年ほど前に閉店し、いまではその名残はほとんど感じられない。店舗空間の奥には住居として用いられていた空間もあり、花岡はその両方にまたがる展示を行った。

使用されたのは、ここに残されたかつての日用品と、家主の家族から提供された古着である。これらの素材が、人間の頭部を主題とした立体作品と組み合わせて展示された。それも、しんとした静けさの中に、人の気配がふんだんに感じ取れる展示となっている。配付資料には使用素材にブロンズと記されており、よくよく見れば、この立体作品がブロンズ製であることがわかる。

第二会場は、さいとう家具店としての営業を終えたのち、いまは文化芸術の発信の場として活用されているシンマチサイトだ。家具店であったころの商品や自作、そして商店街の他の店舗や地域の方々から受けとった日用品などの材料によって、賑やかな空間が構成されている。ここに置かれたいくつもの立体物は、参加者を集って制作されたものだという。

最後の会場は、10年ほど前まで営業していた高木酒店だ。かつては店舗の奥の酒蔵で、日本酒「鷹の春」が醸造さ

れていたが、いまは倉庫となっているこの空間で、花岡はかつての酒店の様子を再現するかのよう展示を行った。しまいこまれていた酒類を商品棚に戻し、床には即興的に構築された立体作品が置かれた。

そして、この店舗の持主であった方々が使っていた道具を軸に構成されたそれらの立体作品を取り囲むように、並べられた酒類や古本が棚に配置され、その中に積み上げられた本のかたちをしたブロンズ製の立体作品がひっそりと展示されている。かつての時間が保存されたかのようで、来場者の多くは不思議な懐かしさを想起したのではないだろうか。

第一会場から第三会場まで、「かつて持主がいた物を集めてつくる」という方法は共通しながらも、制作のあり方は異なっている。大きく分ければその違いとは、完成までの時間と作者の介入の度合いである。第一会場は集めた素材をもとにしつつ、ほとんど作者の手のみで完成に至っている。他方、第二会場は、そもそも完成が設定されていないのではないと思われるほど流動的であり、多くの者の手が関わって成立している。

第三会場は第一会場と対になっているように感じられた。両方とも、花岡が手がけたブロンズ製の立体作品が空間に忍ばせてある。第一会場は忍ばせるといようなささやかさはなく、空間中央に鎮座しているといつてもいいような配置なのだが、これが木ではなくブロンズであると気付いたとき、そしてまた、第三会場で無造作に置かれた古書類の中にブロンズ製の本の束を発見したとき、来場者は目を開かされることになる。

3会場を行き来し、作家が空間に忍び込ませた違和を見ていくと、「在りし日の記憶」としての日用品を見る目が変わる。目の前にあるのは、定められた用途から解放された、まだ名のない何かだ。その価値はこれを見る者が決める。そのような経験をこそ、花岡はこの地に立ち上げたと言えるだろう。

小田原のどか | ODAWARA Nodoka
彫刻家、評論家、出版社代表。芸術学博士（筑波大学）。1985年宮城県生まれ。主な著書に『近代を彫刻／超克する』（講談社、2021年）。主な共著に『吉本隆明：没後10年、激動の時代に思考し続けるために』（河出書房新社、2022年）など。主な展覧会に『近代を彫刻／超克する—雪国青森編』（個展、国際芸術センター青森、2021年）、「あいちトリエンナーレ2019」など。「芸術新潮」「東京新聞」にて美術評を連載中。『現代美術史：欧米、日本、トランスナショナル』（中公新書、2019年）著者で文化研究者・山本浩貴との共同企画「この国 [近代日本] の芸術：『日本美術史』を脱帝国主義化する」を始動させた。



略歴 | Biography

三谷正 | MITANI Tadashi

京都工芸繊維大学造形工学科卒業。PixelEngine 代表。大量のプロジェクターやスピーカーを用いて地形的アプローチからその場所のキャラクターそのものを〈空間〉に明示して立ち上げる。そのためのシステム設計、3DCG 製作等も自ら行う。府下での活動に高台寺、二条城、京都時代祭館、舞鶴赤レンガ倉庫群、京都リサーチパーク、福知山城など。

花岡伸宏 | HANAOKA Nobuhiro

彫刻家。1980年広島生まれ。京都在住。2006年に京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程修了。近年の主な個展に「つくるといふこと」(大阪府立江之子島文化芸術創造センター、大阪、2020)、グループ展に「六本木クロッシング2019: つないでみる」(森美術館、東京、2019)など。作為と無作為の間を歩き来しながら、身の回りの物や木彫、既製品などを組み合わせた立体作品を主に制作している。

関連イベント | Events

花岡伸宏によるワークショップ

「家庭でできる彫刻」

日時 9月11日(日)14:00-16:00
会場 シンマチサイト(旧さいとう家具店)
対象 小学生以上

「“彫刻”をつくってみよう」

日時 9月25日(日)10:00-15:00
会場 シンマチサイト(旧さいとう家具店)
対象 小学生以上

《記憶と立ち上げ》トークセッション

小田原のどか(彫刻家、評論家)×花岡伸宏(彫刻家)

日時 10月1日(土)16:00-17:45
会場 シンマチサイト(旧さいとう家具店)

対話型鑑賞《おしゃべり鑑賞会》

監修 京都芸術大学
アート・コミュニケーション研究センター
会場 《記憶と立ち上げ》展示会場

「ミニおしゃべり鑑賞会」

日時 9月25日(日)13:00-15:00

「おしゃべり鑑賞会」

日時 中学生:10月9日(日)10:00-
一般(高校生以上):
10月8日(土)、9日(日)13:30-
対象 中学生以上

謝辞 | Acknowledgment

福知山市エリアの展示運営にあたりご協力を賜りました。
下記の方々に心より御礼申し上げます。

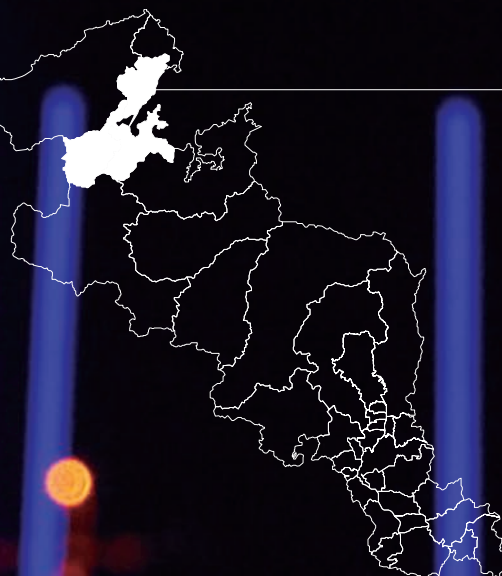
新井厚子
荻忠
公庄祥
齋藤紀久子
高木一幸
高橋和恵
谷口知弘
守本真由子
横川知子/まいまい堂
新町商店街事業協同組合
シンマチサイト実行委員会
一般社団法人福知山ワンダーマーケット
福知山公立大学
福知山市

撮影 シカ丸(p.12)
p.14-15の※はスタッフ撮影

Miyazu City and Amanohashidate area

宮津市天橋立

[海の京都]



開催概要

主催 「海の京都」天橋立地区協議会/京都府
会期 2022年9月23日(金・祝) - 10月23日(日)
※金・土・日・祝のみ公開
時間 18:00-21:00
会場 天橋立公園内小天橋広場/元伊勢 籠神社
天橋立公園内参道(天橋立府中海水浴場付近)
作家 中山晃子/澤渡英一/THINK AND SENSE/
Intercity-Express/Shohei Fujimoto/
Iregular/SPEKTRA
協力 MUTEK.JP/ETERNAL Art Space/MUTEK/
ケベック州政府在日事務所

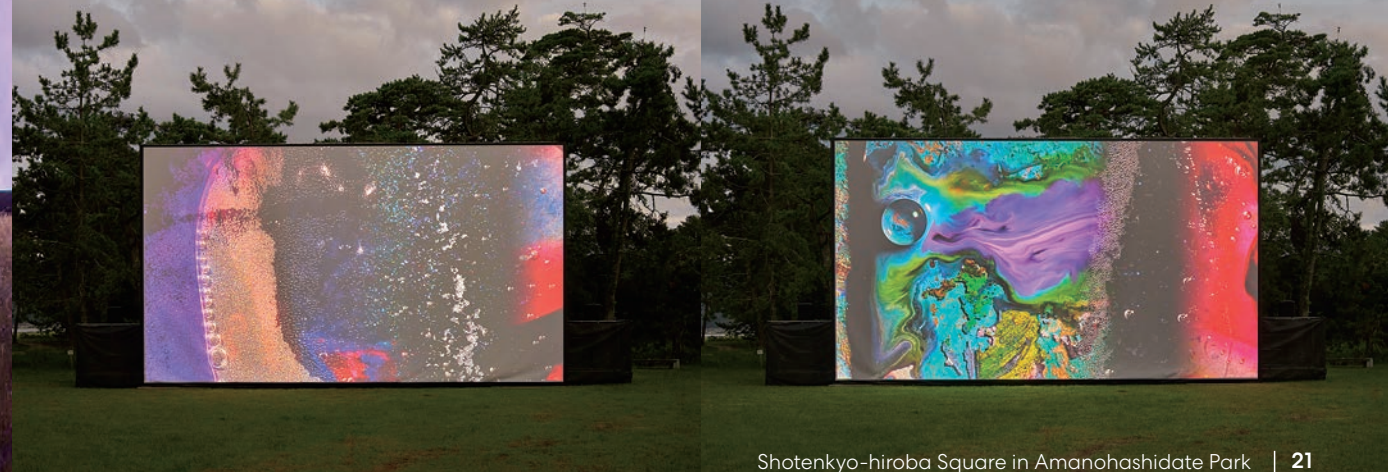
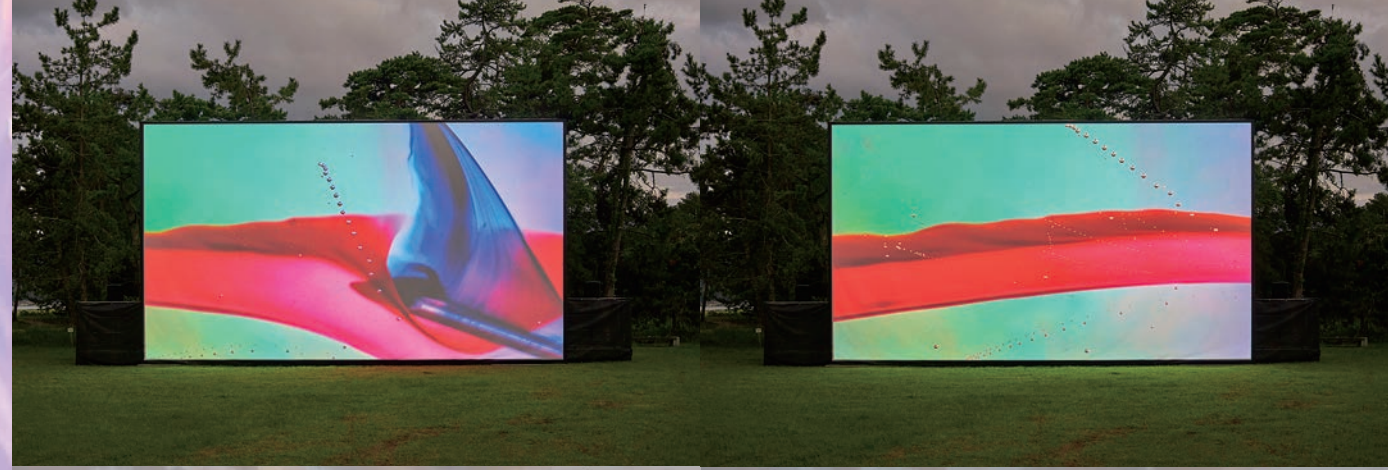
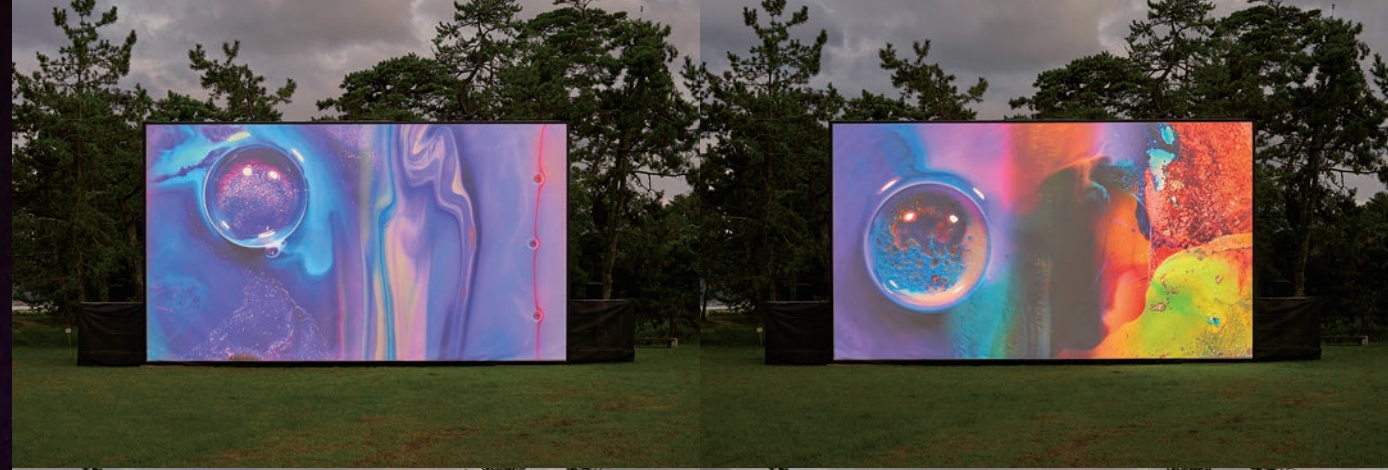
有形文化財や名勝、景観、豊かな自然等を題材としたデジタルアートの世界を体験できる舞台を日本三景の一つ天橋立エリアにて実施。光や映像、サウンドを用いたデジタルアートによる幻想的な世界を演出しました。

By the fantastic digital art with technical light-sound effects, Amanohashidate, one of the three most scenic spots in Japan was transformed into one magical world. This experimental artwork can emphasize the region's historical, cultural, and scenic heritages as well as its unique landscape.

在日本三大風景名勝之一的天橋立地區，設立了以有形的文化資產，風景名勝和景観為基礎，體驗數字藝術世界的舞臺。由活躍在日本國內外的藝術家們，通過圖像、聲音和光線等製作的作品，展示了一個充滿幻想的奇妙世界。

中山晃子 & 澤渡英一

NAKAYAMA Akiko & SAWADO Eiichi



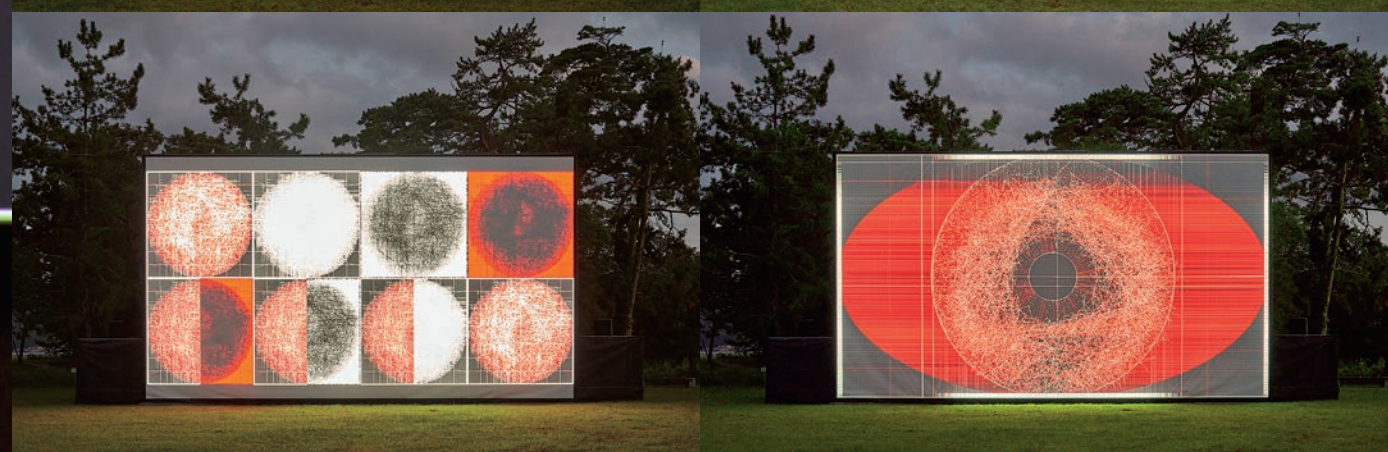
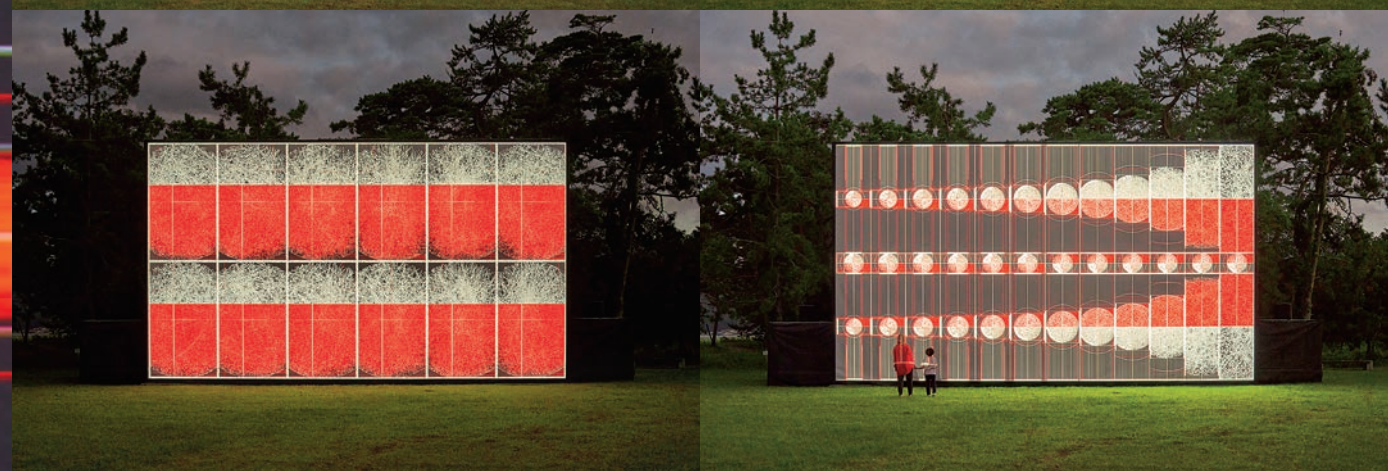
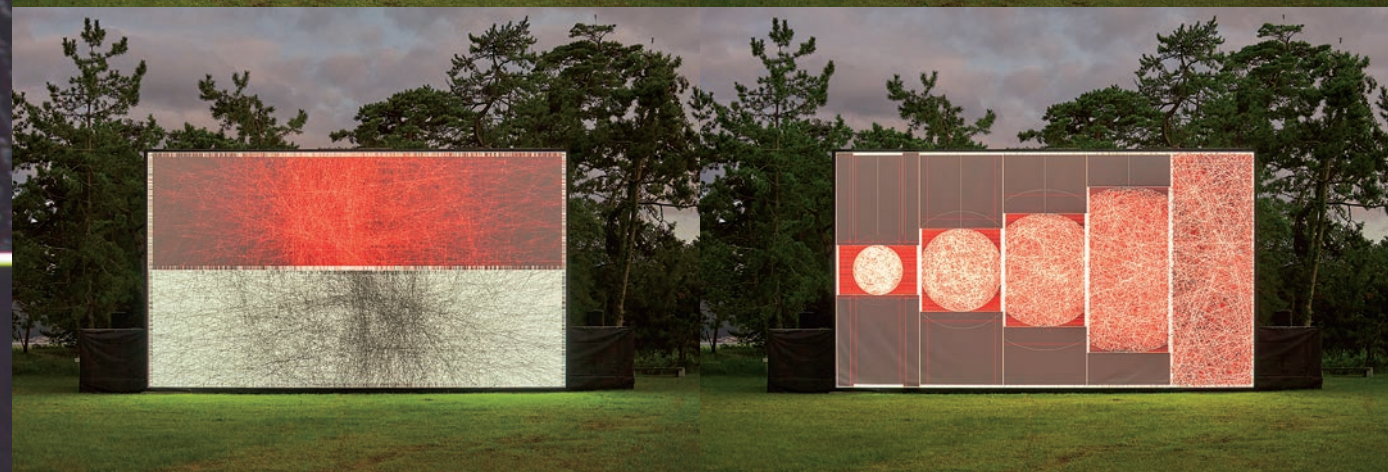
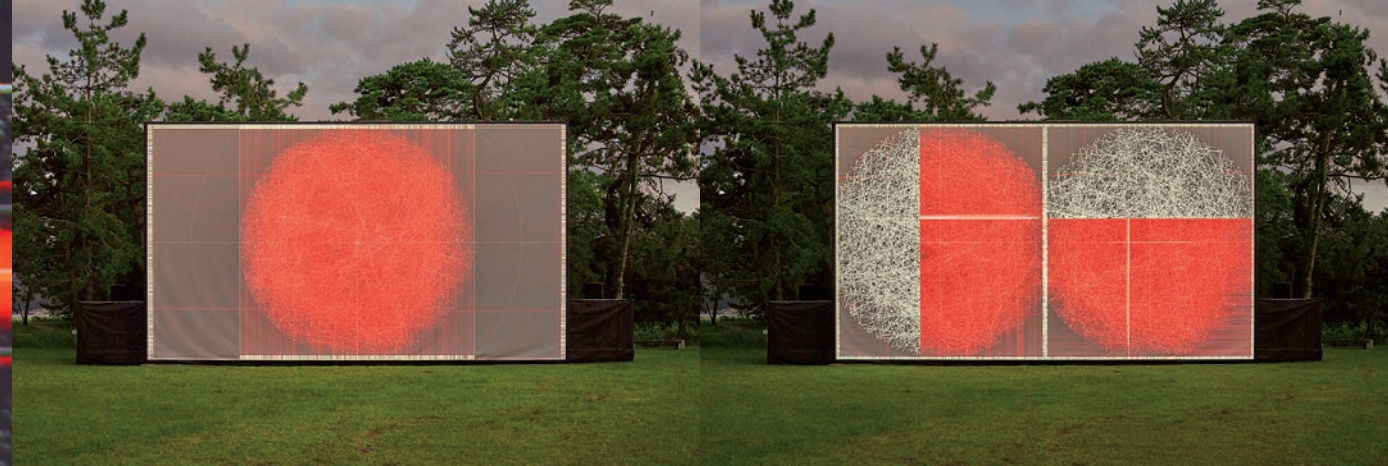
《泡沫の形》

ビジュアルインスタレーション

《泡沫の形》は、時と場所が異なる様々なライブパフォーマンスの記録から、泡が絵のなかで泡以上の役割を与えられ、なにかの見立てになった瞬間、そのようなシーンを切り取り、新たにつなぎ合わせて編集されたものである。したがって作品のサウンドトラックは、音楽というよりむしろ、その瞬間とシーンを象徴として捉えるための個々の音の連なりとして生み出された。現象を取り巻く環境や役割、価値は社会の中で移り変わるけれど、泡は球形を目指し、水は水のまま流れ続ける。変化しつづけるうたかたの形と、変わらない泡沫の形を重ね、ひととき観察する作品に仕上げられている。



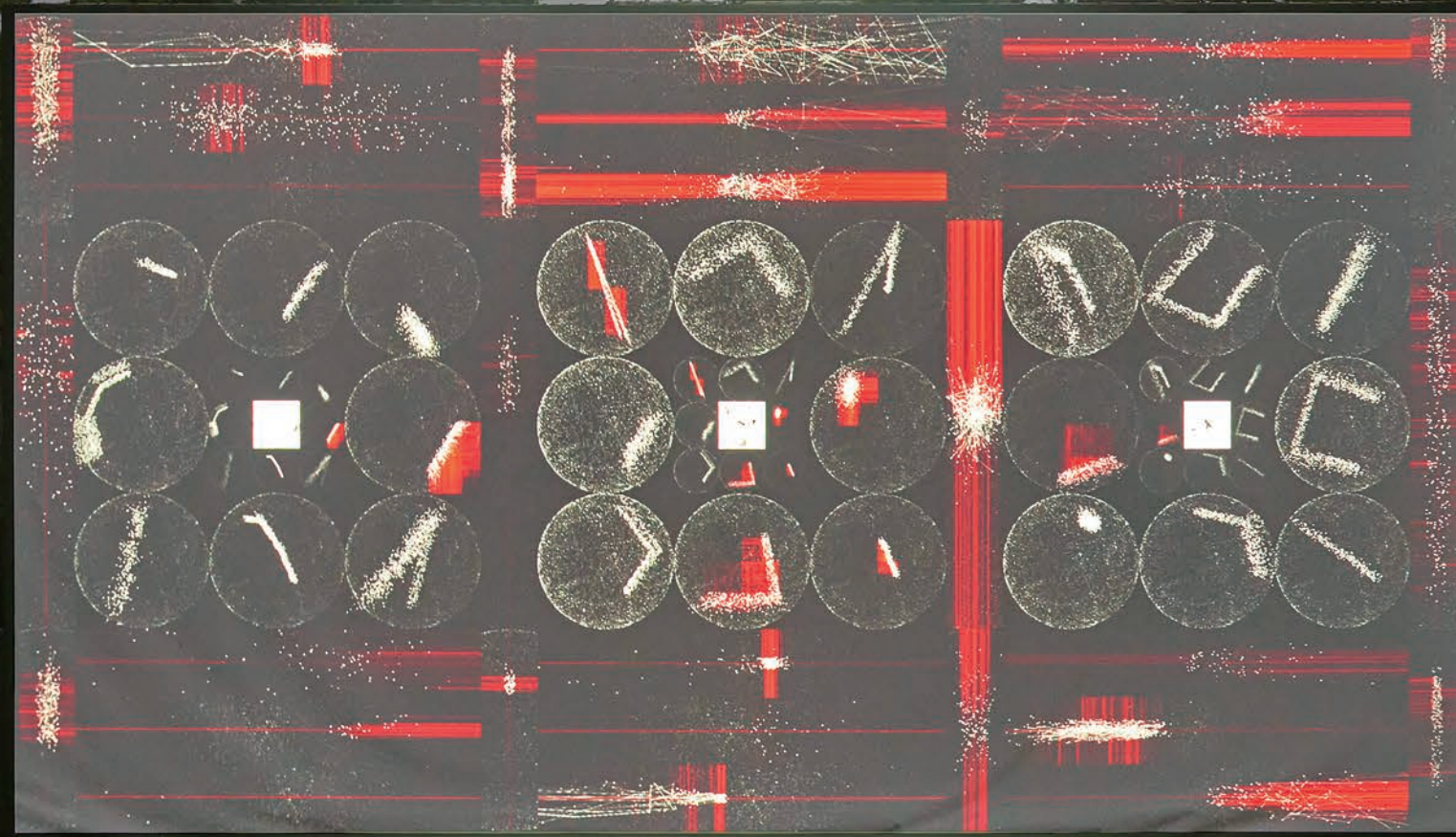
Shohei Fujimoto



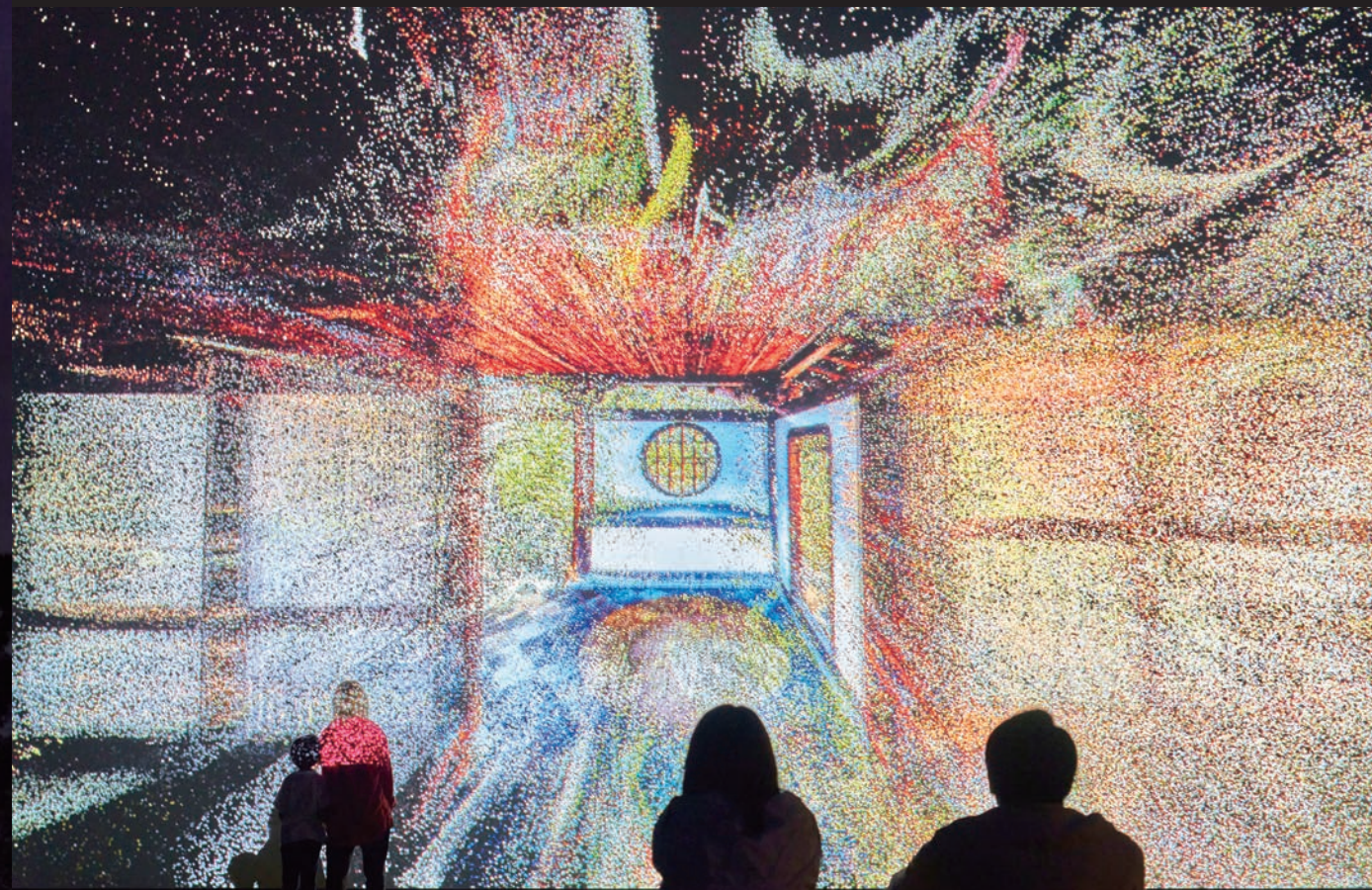
《dynamic light statics [2022]》

ビジュアルインスタレーション

本作品では、コンピュータによってランダム生成される動的なデータに建築的な構造分析の概念、静止させるプロセスを与え、無秩序なデータの背後に存在する潜在的な情報の導き方を探求する。スクリーン上にランダム生成される動的な構造体は、物理的ルール(光の反射)に則って得られるデータを元に生成される。無数の直線で構成される構造体は定期的に静止状態となり、静止状態となった平面的な構造体は、建築図面が描かれるように客観的に解析される。この解析プロセスは、構造体の背後に隠れた潜在的なデータ、ビジュアルを見出す行為であり、コンピュータが自ら無作為に生み出した結果を、コンピュータ自らが解析する自律的なプロセスである。



THINK AND SENSE & Intercity-Express



《Stillness》

ビジュアルインスタレーション

禅をテーマにした本作品は、京都 両足院 副住職伊藤東凌氏の協力の元、高精度レーザーにより三次元化した両足院を最もミニマルな「点」のランドスケープと両足院内外で収録された音を再構築したサウンドスケープにより禅の世界観の一端を表現する。雲からインスピレーションを得た距離感を融解するヴィジュアル、黒を基調とした物質の存在感を融解するヴィジュアルを交互に行き来することで、静と動の体験を構築する。空間を構成するサウンドスケープは、両足院内外の音を再構築。相補的な自然音と電子音の関係性や、静と動の組み合わせによる構成変化など。ヴィジュアルとサウンド両方の側面から「個と外界の境界線の融解」や「緊張と緩和」などを具現化し体験として昇華する。禅の思想を通して、自己に没入するイマーシブな体験の一端をデジタルで表現する。



Iregular

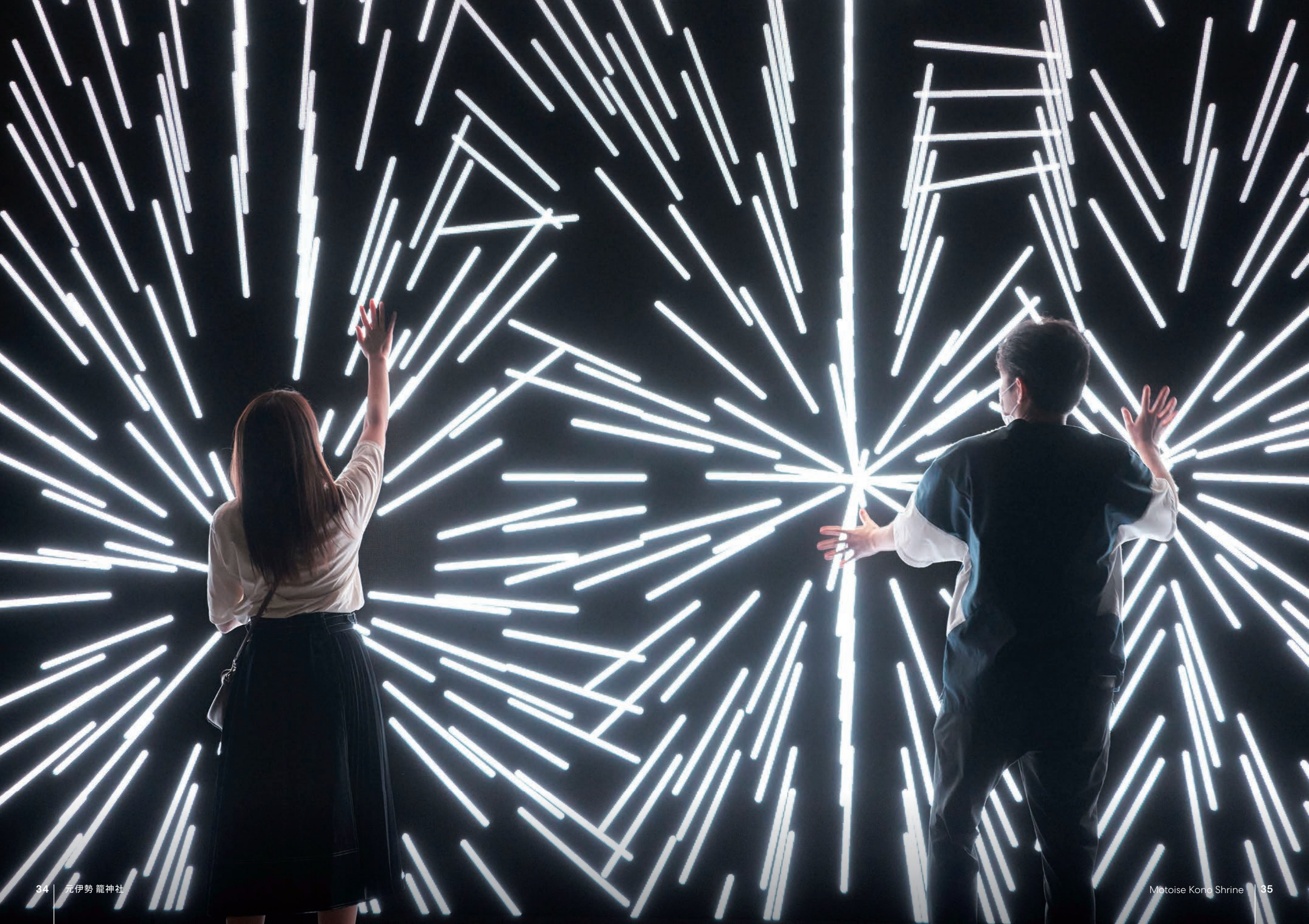


《CONTROL NO CONTROL》

インタラクティブインスタレーション

映像システムサポート：株式会社シーマ

スタジオIregularの特徴的なスタイルで、接触する人や、その表面で行われる動きに反応する幾何学的構造形式の4m×4mの大きなLEDキューブのインタラクティブインスタレーション作品。同時に48人が参加できるその体験は極めて直感的で、鑑賞者の素早い関与と長時間のインタラクションにつながっている。参加者とインタラクティブインスタレーションの関係を模索するこの作品は、一種の社会デジタル実験である。このアート作品の本質的な「指示」能力と、最後は作品をコントロールすることになる鑑賞者に、最終的な視聴覚的結果を委ねる能力をテストしている。



岩波秀一郎

MUTEK Japan / General Director



京都府域展開アートプロジェクト「ALTERNATIVE KYOTO - もうひとつの京都 -」が、9月9日から11月20日まで開催された。今回、ETERNAL Art Space、MUTEK.JP企画協力によるデジタル・インタラクティブアート4作品を宮津市・天橋立のエリアにて2022年9月23日(金・祝)~10月23日(日)の期間に渡り展開した。

天橋立公園内 小天橋広場では、MUTEK.JPの新プロジェクトとして2022年3月に開催したイマーシブアートエクスペリエンスETERNAL Art Spaceから、中山晃子 & 澤渡英一による、変化し続けるうたかたの形と変わらない泡沫の形を重ね、ひととき観察する作品《泡沫の形》、2作品目は、Shohei Fujimotoが手掛ける、プリミティブな視点で現象や形の背後にあるデータを強調・複雑化し、知覚体験を探求している作品《dynamic light statics [2022]》、3作品目は、THINK AND SENSE & Intercity-Expressによる、京都 両足院 副住職伊藤東凌氏の協力の元、禅の世界観の一端を表現した作品《Stillness》を上映。

松林の中の芝生の広場に立つ巨大スクリーンに、高精細な5万ルーメンのプロジェクターを活用した映像演出は圧倒的な存在感を放つ。クリアな音響空間の演出として、どの作品でも重要な要素となっているサウンドを、余す所なく堪能できる空間を提供。海に囲まれた静かな夜の景勝地というロケーションで、作品の世界に没入する非日常感を味わうことのできる展示として評価を得る。

天照大神、豊受大神が伊勢神宮に移る前に祀られていたとされる古社・元伊勢 籠神社では、MUTEK モントリオール、ケベック州政府の協力のもと、モントリオール拠点のスタジオregularから、カナダ・ケベック出身のDaniel Ireguiによる巨大なLEDキューブのインタラクティブインスタレーション作品《CONTROL NO CONTROL》を展示。

境内にたたずむ4M×4Mの立方体LEDのインスタレーションは、いくつかのモノクロのパターンが映し出されるLEDキューブに触れて手を動かすと、それに反応してパターンが様々に変化し、「参加者とインタラクティブインスタレーションの関係を模索する」鑑賞体験の価値を拡張する作品として、『日本の美』とコラボレーションした貴重な展示となった。

日本三景のひとつである天橋立エリアにて、先端技術を組み合わせたデジタルアート・インタラクティブアートによる展開は、幻想的な世界を演出するとともに、地域の文化資源の魅力を最大限に引き出し、国内外へ発信することで、観光インバウンドの拡充と地域経済の活性化につながる取組の進展に寄与する結果となる。

エリアの歴史や風土、有形文化財や名勝、景観、豊かな自然や生活文化等を題材としている「ALTERNATIVE KYOTO - もうひとつの京都 -」は、アートが照らし出す「もうひとつの京都」を発見することができる最高峰の文化資源を更に磨き上げる活動として、多くの方より定評を受ける。



MUTEK.JP / ETERNAL Art Spaceの企画協力のもと、国内の著名アーティストが手がけるデジタルアート計3作品を500インチを越える特別スクリーンにて上映。映像と音に包まれた空間で本格的な芸術に没入できる新しいデジタルアート体験を提供しました。映像システムサポート:株式会社シーマ

《Emissivescapes》

オーディオビジュアルインスタレーション

企画・構成：asaco、池田航成、後藤祐介、森岡東洋志

全体設計・電気配線：後藤祐介

システム設計・プログラミング：園田元基、森岡東洋志

照明演出・プログラミング：森岡東洋志

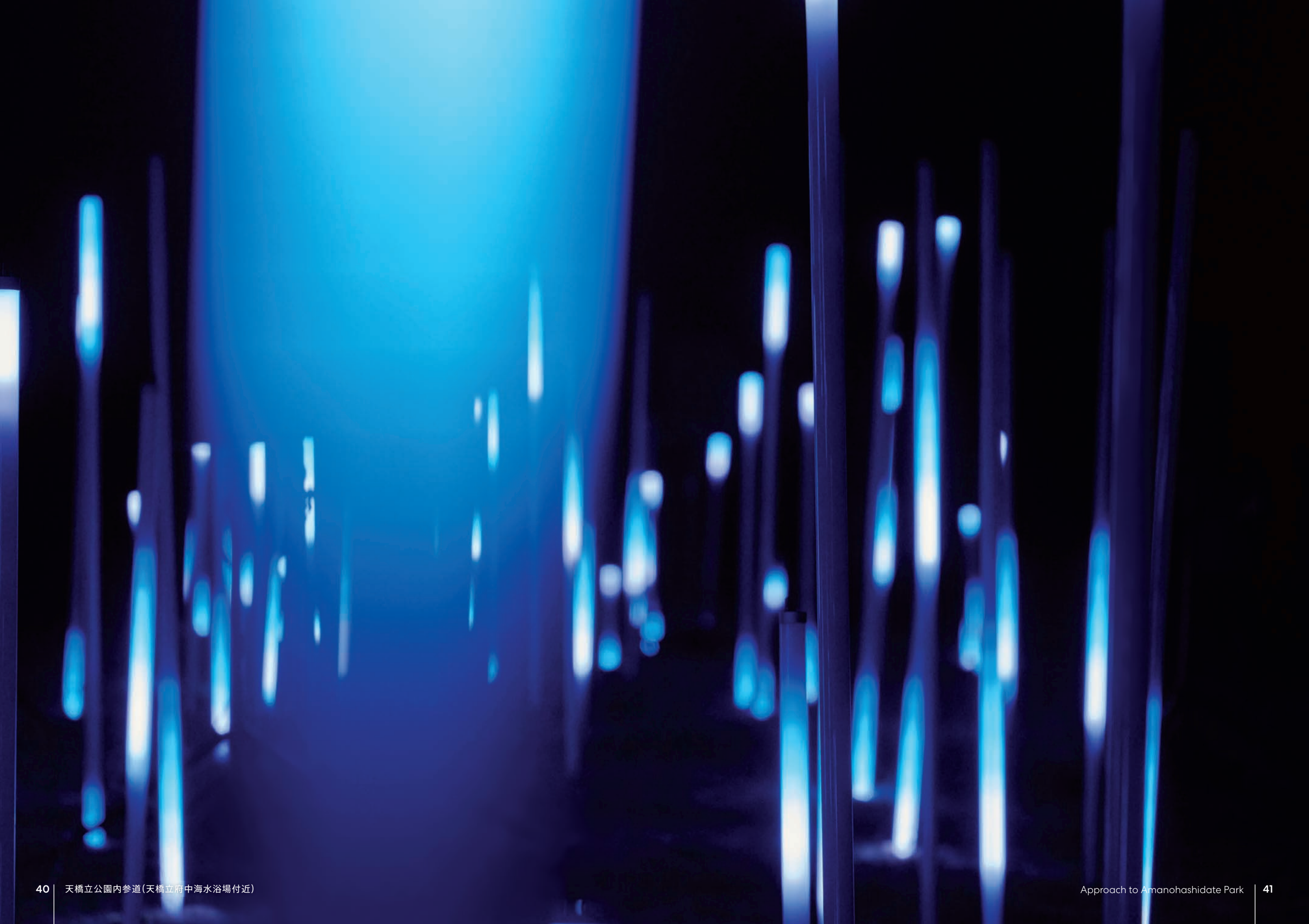
作曲・サウンドプログラミング：赤川淳一

インストール：赤川純一、asaco、池田航成、後藤祐介、園田元基、森岡東洋志

プロジェクトマネジメント：池田航成

音響：島田達也(Riverfuse)、川合陽三(Riverfuse)

対象物と観察者を光が繋ぐことで初めて『見る』という行為は可能になる。今回、全長3.6kmにも及ぶ長大なランドスケープである天橋立に無数の自ら発光する物体を設置することで観察行為への介入を試みる。



略歴 | Biography

中山晃子 | NAKAYAMA Akiko

画家。色彩と流動の持つエネルギーを用い、様々な素材を反応させることで生きている絵を出現させる。絶えず変容していく「Alive Painting」シリーズや、その排液を濾過させるプロセスを可視化し定着させる「Still Life」シリーズなど、パフォーマンス的な要素の強い絵画は常に生成され続ける。様々なメディウムや色彩が渾然となり、生き生きと変化していく作品は、即興的な詩のようでもある。鑑賞者はこの詩的な風景に、自己や生物、自然などを投影させながら導かれ入り込んでいく。近年ではTEDxHaneda(東京)、Ars Electronica(リンツ)、Biennale Nemo(パリ)、LAB30 Media Art Festival(アウグスブルグ)、MUTEK(モントリオール)等に出演。http://akiko.co.jp

澤渡 英一 | SAWADO Eiichi

音楽家。一橋大学大学院修了。20世紀後半の現代音楽/実験音楽(主にMorton Feldman及びCornelius Cardew)を研究。作曲理論を山口博史氏に師事。Jaques Morelenbaum & Goro Itolによるアルバム『Rendez-Vous in Tokyo』、その他アルバムにピアニストとして参加。理論家としては山口博史著『厳格対位法バリ音楽院の方式による』(音楽之友社)に範例提供している。MUTEK.JPではこれまでCarsten Nicolai、James Holden、Ben Frostの対談相手を務めた。http://www.esawado.net/

Shohei Fujimoto

1989年生まれ。東京拠点。プリミティブな視点で、現象や形の背後にあるデータ、事実を簡潔に捉え、それらを強調、複雑化する試みを通して、本質的な性質を持つ空間、知覚体験を探求している。

THINK AND SENSE

多様化していく社会においてテクノロジーをベースとした複合的なアプローチで 枠組みの構築からソリューションの開発まで行い、社会実装を試みる株式会社ティアンドエスのテクノロジカル・クリエイティブファーム。

Intercity-Express

音楽家・大野哲二によるサウンド/ビジュアルプロジェクト。広告音楽の制作と並行して、ビジュアルプログラミングによって生成されたA/V 作品「triggering」を発表し、海外を中心にライブを行う。主な出演としてMUTEK(カナダ、メキシコ、スペイン、東京)、Scopitone(フランス)、HPL(ロシア)、AVA(北アイerland)、L.E.V(スペイン)、Sónar(ポルトガル)など。

Iregular

2010年にモントリオールで設立されたデジタルアートスタジオ。インタラクティブで没入感のある体験に焦点を置き、オーディオビジュアルインスタレーション、アーキテクチャープロジェクション、セノグラフィーを制作している。アートとテクノロジーが交差するこれらのアート作品は、鑑賞者が最終的に影響を与えて変容させるといったインタラクティブなシステムによって、無限のランダムな組み合わせを生み出す。そのようなインタククションが、すべての作品の核となり、人と作品の関係性のみが、アート作品を最終的に完成させ、意味を与えます。作品はオランダのヴァンアッペミュージアムでの個展等これまで25カ国で展示され、シカゴ(アメリカ)のWNDR美術館等のコレクションにも入っている。https://iregular.io/

SPEKTRA

京都を中心に活動する実験者集団。プロジェクトごとに異なるメンバーが集まり、新たな表現の模索を行う。近年は照明やプロジェクターなどの光を用いた作品制作を多く行っている。主な作品に、Harmonize(2021, KYOTOSTEAM)、Common(2021, のせてんアートライン)、Listening to the evening《丹に夕坐す》(2021, electronic evening 2021・共同制作作品)など。他に、音楽イベント INTER+(2019) 主催、コミュニティとカルチャー醸成のためのワークショップの企画・実施、また音楽アーティストの配信やMVの演出を行う。

関連イベント | Events

特別展「祈りのカタチ

―丹後に生きた人々の願い―

場所 京都府立丹後郷土資料館

会期 2022年10月22日(土)―12月11日(日)

※ライトアップ10月22日―11月7日

※ナイトミュージアム10月22・29日、

11月3―5日(期間中21:00まで開館)

天橋立 砂浜ライトアップ

《Light and sound》

会期 2022年7月9日(土)―10月23日(日)

19:00―22:30 ※毎日開催

場所 天橋立公園内 ※入場無料

作家 長町志穂 / 平井真美子

謝辞 | Acknowledgment

宮津・天橋立エリアの展示運営にあたりご協力を賜りました。下記の方々に心より御礼申し上げます。

文珠町づくり委員会(文珠自治会、天橋立文珠繁栄会)

府中「海の京都」推進協議会

(府中地区連合自治会、天橋立府中観光会、府中実業会)

(一社)京都府北部地域連携都市圏振興社天橋立地域本部

宮津天橋立観光旅館協同組合

宮津商工会議所

丹後海陸交通株式会社

WILLER TRAINS 株式会社

宮津市

天橋山 智恩寺

元伊勢 籠神社

成相山 成相寺

京都府立丹後郷土資料館

株式会社シーマ

リバーフューズ合同会社

Sky Vision ProTV

ウシオライティング株式会社

(有)トネット

上田電気設備

小林美工社

(株)アイデンティティブランディング

(株)LEM空間工房

※順不同



Muko City 向日市

[竹の里・乙訓]

開催概要
 主催 向日アートプロジェクト実行委員会
 会期 2022年10月29日(土)~11月20日(日)
 ※土・日のみ公開
 時間 18:00~21:00
 会場 向日神社(参道/本殿裏石舞台/舞楽殿横)
 作家 原摩利彦/白木良/SPEKTRA/COREY FULLER/山本信一
 協力 MUTEK.JP/ETERNALArt Space



京都市に隣接し、西日本で一番小さい市ながら豊かな自然や歴史名所などの見どころが詰まっている向日市では、国指定重要文化財を有する向日神社内にて、地域の歴史や風土等を題材としたデジタルアート作品を展示。光や映像、サウンドを用いたデジタルアートによる空間演出によって、参道から境内のあらゆる場所で、幻想的な世界を感じることができました。

Muko City, neighboring to Kyoto City, the smallest city in western Japan is renowned with its rich nature and famous historical sites. In this area, Muko Shrine that owns national-important-cultural-assets, was spotted as the exhibition venue this year. The digital video artworks nuancing city's history and culture were presented in the premises using lighting and sound effect. Participants were drawn to the unreal experience by wondering in the shrine area.

与京都市相邻，虽然是西日本最小的市，但是充满了丰富的自然和历史名胜等看点的向日市，在拥有重要文化财产的向日神社内，展示了以地域的历史和風土等为题材的数字艺术作品。用光和映像，声音的数字艺术的幻想的世界演出。

原摩利彦 & 白木良

HARA Marihiko & SHIRAKI Ryo



《Altered Perspectives 2022》

オーディオビジュアルインスタレーション

音楽：原摩利彦

プログラミング：白木良

施工：有限会社スタジオアーク

音響：島田達也 (Riverfuse)、川合陽三 (Riverfuse)

音楽家・原摩利彦とプログラマー・白木良によるオーディオビジュアルインスタレーション。この土地をあらゆる方向から見つめ直し、土地に由来するデータとフィールドレコーディングに想像力を加え、プログラミングを用いた映像・音響表現で参道にもうひとつの空間を描き出すことを試みた。





《Scatteredscapes》

キネティックオーディオインスタレーション

企画・構成：asaco、池田航成、後藤祐介、森岡東洋志
全体設計：後藤祐介

ハードウェア設計、制作：後藤祐介

システム設計・プログラミング：森岡東洋志

キネティック演出・プログラミング：池田航成

作曲・サウンドプログラミング：赤川淳一

インストール：asaco、赤川淳一、池田航成、後藤祐介、森岡東洋志

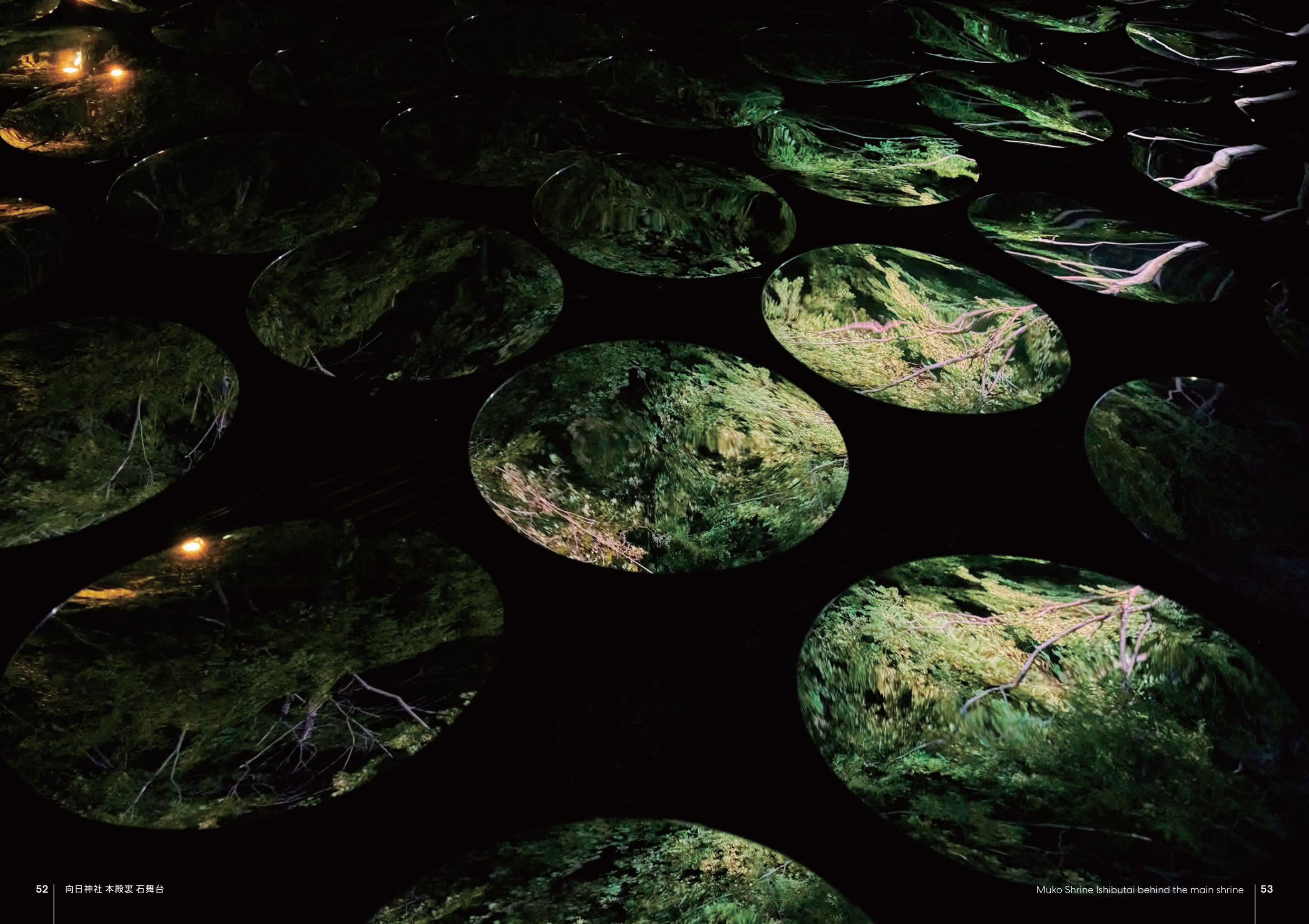
プロジェクトマネジメント：池田航成

制作アシスタント：重本玲奈、上村麻耶子

音響：鳥田達也(Riverfuse)、川合陽三(Riverfuse)

什器制作：スタジオアクア

対象物と観察者を光が繋ぐことで初めて『見る』という行為は可能になる。制御された多数の鏡で構成された光学装置により、鎮守の森の風景は離散化し、変容していく。



Corey Fuller & Synichi Yamamoto



《Sanctuary》

アンビエントインスタレーション

映像システムサポート：株式会社シーマ

Corey FullerとYAMAMOTO Synichiのコラボレーションで発表してきた3つのアンビエントインスタレーション作品のうちのひとつ。方丈記をテーマにした書道家、木下真理子氏をむかえたコラボレーション《Fragments》(2019)、新設した池袋西口公園のための、行き交う空間をコンセプトにした都市の中の静寂がテーマの《Colure》(2019)と、いずれも移り変わる映像が干渉して生み出す一期一会のオーディオビジュアル作品。本作、《Sanctuary》(2020)は日本がコロナ禍に入ろうとしていた2020年の2月に制作・公開され、先の2作品が都市の中で静寂をテーマにしたのに対し、不安をむかえた時期に安全地帯のように区切られた癒やしの空間をつくりだした。



略歴 | Biography

原 摩利彦 | HARA Marihiko

京都大学教育学部卒業。同大学大学院教育学研究科修士課程中退。静けさの中の強さを軸にピアノを中心とした室内楽やフィールドレコーディング、電子音を用いた音響作品を制作する。笙やサントウルを取り入れ音響的共存を目指したアルバム《PASSION》を発表。野田秀樹《フェイスピア》やダミアン・ジャレ + 名和晃平《VESSEL》などの舞台作品、映画《流浪の月》(監督：李相日)の音楽を手がける。令和3年度京都府文化賞奨励賞受賞。

白木良 | SHIRAKI Ryo

京都を拠点に自作のソフトウェアを用いた映像、音響、建築などジャンルを横断した制作活動をおこなう。アーティスト・コレクティブDumb Typeに参加。高谷史郎、池田亮司、名和晃平をはじめとした多くのアーティストの作品制作にも携わる。

SPEKTRA

京都を中心に活動する実験者集団。プロジェクトごとに異なるメンバーが集まり、新たな表現の模索を行う。近年は照明やプロジェクターなどの光を用いた作品制作を多く行っている。主な作品に、Harmonize (2021, KYOTO STEAM)、Common (2021, のせてんアートライン)、Listening to the evening《丹に夕坐す》(2021, electronic evening 2021・共同制作作品)など。他に、音楽イベント INTER+ (2019) 主催、コミュニティとカルチャー醸成のためのワークショップの企画・実施、また音楽アーティストの配信やMVの演出を行う。

Corey Fuller

アメリカ生まれの日本育ち。現在は東京を拠点に活動するサウンドアーティスト、ミュージシャン。NYの老舗レーベル12kよりソロ名義のほか、ILLUHA、OHIO名義などでこれまで数々のアルバムをリリース。世界各地をツアーで周り、坂本龍一、山本信一、TaylorDeupree、Stephan Mathieuなど様々なアーティストとコラボレーションを重ね、作品を発表している。また、アルバム作品のみならずマルチメディア作品、インスタレーション、パブリックアート作品、空間音楽作品も発表しており、「自然とテクノロジー」「静寂」などをテーマに、型に嵌めることなくボーダーレスに活動の場を広げている。

山本 信一 | YAMAMOTO Synichi

90年代からメディアアートとしてのビデオアートに取り組む、中谷英二子氏のビデオギャラリーSCANや日本の実験映像のアンダーグラウンドセンターとして歴史を持つImageForumに参加。映画の手法とは違う「エレクトリック音楽の延長という映像」というアプローチで、国内外で数多くの作品を発表。近年は日本科学未来館との共同研究でドームと球体の2つの映像作品を発表して以降、科学概念や哲学の可視化などをテーマに空間的な映像作品を発表してきている。17年からは、MUTEK.JPとライブパフォーマンスだけでなくティザーID、都市回遊形XR、公共空間でのインスタレーション、文化庁分散化ミュージアムなどでもコラボレーション。また一方、21年に手がけた「新宿東口の猫」では独特のユーモアで国内外で多くの反響を得て、都市の屋外映像を使ったソーシャルデザインとして17の賞を受賞した。

謝辞 | Acknowledgment

向日市エリアの展示運営にあたりご協力を賜りました。下記の方々に心より御礼申し上げます。

向日神社
向日神社崇敬会
向日市観光協会
向日市商工会
向日市
呉電気工業
有限会社スタジオアクア
リバーフェーズ合同会社
株式会社シーマ
株式会社アール
※順不同

関連イベント | Events

Art Collaboration Kyoto (ACK)

場所 国立京都国際会館 イベントホール ほか
会期 2022年11月18日(金) - 11月20日(日)

Art Collaboration Kyoto (ACK) は、「現代アートとコラボレーション」をテーマに京都で開催するアートフェアです。現代アートに特化したアートフェアとしては日本最大級で、世界各都市から64のギャラリーが出展しました。





京都府域展開アートプロジェクト
ALTERNATIVE KYOTO もうひとつの京都 2022
Artspace of the light

総合ディレクター 八巻真哉

編集 京都府文化スポーツ部文化芸術課
デザイン 加瀬部敏志
写真 佐々木香輔 (福知山市・宮津市・天橋立・向日市)
映像 株式会社福知堂 (福知山市)
VEJ (宮津市・天橋立)
加藤文崇 (向日市)
発行 向日アートプロジェクト実行委員会 (京都府、他)
発行日 2023年3月
表紙 SPEKTRA《Emissivescapes》

<https://2022.alternative-kyoto.jp/>



令和4年度文化資源活用推進事業